

甲 第 号

川島 涉 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲第号	氏名	川島 渉
論文審査担当者	委員長	教授	車谷 典男
	副委員長	教授	桐田 忠昭
	委員	教授	國安 弘基
	委員	教授	田中 康仁
	委員	教授	羽竹 勝彦
	(指導教員)		

主論文

A new quantitative multi-parameter method improves the accuracy of age estimation from oral findings.

口腔内所見を用いた新たな年齢推定法

Wataru Kawashima, Katsuhiko Hatake, Yoshifumi Morimura,
Risa Kudo, Mari Nakanishi, Shigehiro Tamaki, Shogo Kasuda,
Katsuya Yuui and Akiko Ishitani

Research and Practice in Forensic Medicine

第 56 卷 211-218 頁

2013 年 12 月発行

論文審査の要旨

損傷が激しい遺体でも歯牙は長期間残存していることが多いため、身元不明遺体の個人同定の極めて有力な情報となる年齢を推定するための指標に従来から用いられてきている。しかし、従来の歯牙指標は肉眼的所見が多く客観性に欠けるきらいがあること、無歯顎の場合は推定できないこと、さらには大規模災害などのような場合には X 線装置などの特殊な装置なしにしかも迅速な判断が求められるなどから、申請者は、歯牙を含めた口腔内所見を基に新しい年齢推定法を開発することを目的に本研究を行っている。具体的には、より客観性が高い指標として、上顎と下顎の歯牙数、補綴物数、歯牙咬耗度(6 段階分類)、咬合接触域、そして下顎角角度(実測値)の 6 つを設定し、実年齢が判明している 225 例の法医解剖症例を用いて、重回帰式による年齢推定式を求めたものである。その結果、過去の報告と同等の精度、特に高齢者においてより高い精度の年齢推定ができることを証明するとともに、年齢の増加にともなって下顎角が大きくなることを示し、無歯顎症例の年齢推定に初めて成功している。

申請者の研究結果は、簡便で迅速かつ精度高く年齢推定できることから、身元不明死体、特に大規模災害時の身元判明に有用な方法であり、法医学・法歯学分野の進歩に貢献するものである。

参 考 論 文

1. Vector-controlled alveolar distraction osteogenesis using an implant-fixed provisional prosthesis: a case report.

Kawashima Wataru, Takayama Kenichi, Fujii Ryosuke, Matsubara Yuuri, Kirita Tadaaki.

Implant Dent. 22(1): 26-30, 2013

2. Respiratory complications of Ehlers-Danlos syndrome type IV.

Hatake Katsuhiko, Morimura Yoshifumi, Kudo Risa, Kawashima Wataru, Kasuda Syogo and Kuniyasu Hiroki.

Leg Med 15: 23-27, 2013

3. Asphyxial death related to postextraction hematoma in an elderly man.

Kawashima Wataru, Hatake Katsuhiko, Morimura Yoshifumi, Kudo Risa, Nakanishi Mari, Tamaki Shigehiro, Kasuda Syogo, Yuui Katsuya and Ishitani Akiko.

Forensic Sci Int 228: e47-e49, 2013

4. 頰部皮下組織の広範な血腫により窒息をおこし死亡した剖検例.

川島 渉, 森村佳史, 工藤利彩, 粕田承吾, 勇井克也, 玉置盛浩, 中西真理, 國安弘基, 羽竹勝彦.

法医学の実際と研究 55: 85-90, 2012

5. 妊娠中に死亡した1剖検例.

羽竹勝彦, 森村佳史, 工藤利彩, 粕田承吾, 川島 渉, 中西真理, 石谷昭子.
法医学の実際と研究 54: 155-159, 2011

6. Autopsy case of a patient with 13q- syndrome.

Kasuda Syogo, Morimura Yoshifumi, Kudo Risa, Kawashima Wataru,
Tamaki Shigehiro, Nakanishi Mari, Hatake Katsuhiko.
Leg Med 12: 144-147, 2010

7. Soluble MICB serum levels correlate with disease stage and survival rate
in patients with oral squamous cell carcinoma.

Tamaki Shigehiro, Kawakami Masayoshi, Ishitani Akiko, Kawashima
Wataru, Kasuda Syogo, Yamanaka Yasushi, Shimomura Yukihiro, Imai
Yuuichiro, Nakagawa Y, Hatake Katsuhiko and Kirita Tadaaki.
Anticancer Res 30: 4097-4102, 2010

8. 声門下狭窄が認められた1剖検例.

川島 渉, 森村佳史, 工藤利彩, 粕田承吾, 玉置盛浩, 中西真理, 羽竹勝彦.
法医学の実際と研究 53: 51-55, 2010

9. アミロイドーシスで死亡した1剖検例.

羽竹勝彦, 森村佳史, 工藤利彩, 粕田承吾, 川島 渉.
法医学の実際と研究 52: 139-143, 2009

10. Haemophilus influenzae による髄膜炎で急死した1剖検例.

粕田承吾, 森村佳史, 工藤利彩, 川島 渉, 玉置盛浩, 中西真理, 羽竹勝彦.

法医学の実際と研究 52: 145-149, 2009

11. MICA Gene Polymorphism Not Associated with Nonsyndromic Cleft Lip with or without Cleft Palate in the Japanese Population?

Tamaki Shigehiro, Kawakami Masayoshi, Yamanaka Yasushi, Imai

Yuuichiro, Kawashima Wataru, Yamamoto Kazuhiko, Kasuda Syogo,

Hatake Katsuhiko and Kirita Tadaaki.

Genet Test Mol Biomarkers 13: 445-448, 2009

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに法医学・法歯科学の分野の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 26 年 3 月 6 日

学位審査委員長

地域健康医学

教 授 車谷 典男

学位審査副委員長

口腔・顎顔面機能制御医学

教 授 桐田 忠昭

学位審査委員

分子腫瘍病理学

教 授 國安 弘基

学位審査委員

運動器再建医学

教 授 田中 康仁

学位審査委員（指導教員）

法医学

教 授 羽竹 勝彦